

J112a **MAXI が発見検出した 2013 年度前半の突発天体と突発現象**

根来 均, 福島 康介 (日本大学), 芹野 素子, 森井 幹雄, 三原 建弘, 松岡 勝 (理研), 富田 洋, 中平 聡志 (JAXA), 河合 誠之 (東工大) ほか MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI が 2013 年度前半に発見、検出した突発天体および現象を報告する。MAXI は、2009 年 8 月に観測を始めて以来、今日までほぼ連続した全天のモニターリング観測をしてきた。この半年間も様々な階層 (スケール) の天体の強度変動を捉え、前回の春季年会以降、6 月 17 日現在までに、The Astronomer's Telegram (ATel) に 7 件、The Gamma-ray Coordinates Network (GCN) に 4 件の報告を行った。

INTEGRAL により発見された球状星団 M28 中に見つけられたトランジェント X 線源からの X 線バーストを検出し、世界に先駆け E-mail で速報し、ATel にも報告した (Serino et al. ATel #4961)。また、MAXI が検出したブレーザー Mrk 421 の過去最大級の増光 (Isobe et al. 2010) に匹敵する巨大フレアを捉えた (Negoro et al. ATel #4978)。銀河中心近くの中性子星 SAX J1747.0-2853 のアウトバーストや変光星 HD 347929 のフレアを捉え、それぞれ Swift により確認された (Negoro et al. ATel #5041, #5075, Kennea et al. ATel #5078)。

GRB に関しては、130407A, 130427A, 130505A, 130505B の検出を GCN に報告した。これらのうち、130505B (Serino et al. GCN #14586) については Swift の追観測で通常の GRB の afterglow より早い減光が確認されており、GRB 以外の天体の可能性も指摘されている。(Melandri et al. GCN #14604)

今日、MAXI チーム以外の海外の研究者らによる、MAXI チームからの e-mail 速報や公開されている MAXI のデータを用いた ATel への報告も多くなってきている。発表では、MAXI の現状を含め、上記以外の MAXI が発見検出した天体や現象、そして、その科学的意義について報告する。